

旧石器ハテナ館だより

せんとうき
尖頭器



尖頭器とは、主に旧石器時代に使われた狩猟具です。

旧石器ハテナ館
〔 史跡田名向原遺跡 旧石器時代学習館 〕

神奈川県相模原市中央区
田名塩田 3-23-11
Tel 042-777-6371

平成 26 年 12 月 22 日
【第 25 号】



さきたま古墳群と吉見百穴を訪ねて

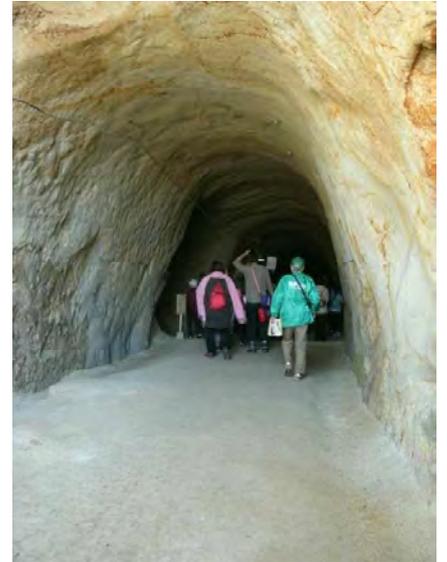


吉見百穴

現在は 219 基の横穴が確認されていますが、岩が剥き出しになった斜面にいくつもの穴が空いている様子が独特の印象を与えます。吉見百穴には、横穴墓だけではなく、第二次世界大戦中に建設された地下軍需工場跡や、国の天然記念物であるヒカリゴケなどもあり、そちらも皆さん興味深そうに見ていました。

ハテナ館では秋の恒例イベントとなっているバスツアーですが、今年は 10 月 25 日（土）に、埼玉県のさきたま古墳群と吉見百穴を見学して来ました。当日は青天に恵まれ、参加者全員が予定通りに出発することができました。

バスはまず吉見百穴に向かい、現地では解説ボランティアの方の説明を聞きながら見学をしました。吉見百穴は古墳時代終末期の横穴墓で、国の史跡に指定されており、



地下軍需工場跡



国宝金錯銘鉄剣

や稲荷山古墳からは、他の古墳や映画で話題になった忍城もよく見え、記念写真を撮る参加者も多くいました。

1 時間半ほどかけて公園内の古墳を一通り見終えた後は、再びバスに乗って帰路につきました。参加者の皆さんの協力もあってアクシデントもなく、楽しいバスツアーに出来たのではないかと思います。

吉見百穴の見学を終え

た後は、さきたま古墳公園に向かい、まず公園内にあるさきたま史跡の博物館で解説ボランティアの方のお話を聞き、国宝展示室で国宝金錯銘鉄剣をはじめとした様々な古墳の副葬品を見たり、企画展示室で埴輪の展示を見たりしました。公園内のレストハウスなどで昼食を済ませた後は、東日本最大の古墳群であり、国の史跡でもある埼玉古墳群を実際に見て歩きました。古墳の上に登ることができる丸墓山古墳



丸墓山古墳から稲荷山古墳を臨む

文化財探訪

今年の秋の探訪は、隣接する厚木市を巡りました。厚木市内でも比較的相模原市に近い、中依知・下依知地区です。相模川と中津川に挟まれた「中津原台地」にあり、たくさんの古墳があることで知られている地域です。

JR 海老名駅をスタートし、最初はひたすら歩いて約 1 時間。この時期としては冷たい風の吹く寒い日でしたが、途中、相模川を渡るころには少し体も暖まってきました。かつては東岸からも古墳が見えていたと思われませんが、今は高速道路や建物で遮られて確認することはできません。金田神社で厚木市教育委員会の武内啓悟さんと合流し、ここからの解説をお願いしました。厚木市内でも最も古い古墳の一つとされる「吾妻坂古墳」は、発見時には既に南側が道路により削られていましたが、その後の調査で鉄剣や鏡など多数の副葬品が出土し、木棺を埋めたと思われる穴が 6 か所見つかっています。依知南公民館で休憩し、次に「大久根古墳」へ向かいました。この古墳は〈おおくね公園〉の中にあり、現状保存することが決まったため、内部の埋葬部分は未調査です。4 世紀後半から 5 世紀前半の築造と推定される方墳で、参加者は墳丘の上に登り、古墳の形と大きさを確認していました。次の「稲荷山 1 号墳」もやはり〈仲道公園〉の中にありますが、こちらは大正時代に敷設された横須賀水道により西側を削り取られてしまっていて、その後の調査でも内部施設は確認できませんでした。これらの古墳は古墳時代前期から中期までのものでしたが、最後に向かった桜

依知地区の古墳群を歩く



大久根古墳

樹古墳群は、古墳時代後期に築造された 20 基以上からなる群集墳です。さがみ縦貫道などの建設に伴って一部が調査され、石室をもつ円墳 8 基が確認されましたが、今回見ることができたのは、畑や墓地の中にかろうじて残っている古墳の形跡のみでした。

依知地区には、かつて百数十基もの古墳があったとされますが、残念ながらその多くが未調査のまま消滅してしまいました。それでも今回歩いた道沿いには、言われなければ気づかないような小さな古墳やその形跡がいくつも見られました。27 名の参加者からは次々と質問が出され、「こんなに身近に古墳があるなんて知らなかった」といった声も聞かれました。

旧石器ハテナ館の周囲にも谷原古墳群があります。相模原市外の古墳を知ること、近くにある遺跡にも目を向けるきっかけを作ってもらえたのではないのでしょうか。

講演会「骨から見た大昔の人びと」 講師 谷畑美帆先生



変形性膝関節症の所見を持つ男性人骨
(千葉県姥山貝塚出土)

12 月 13 日に古人骨の研究をされている明治大学文学部講師の谷畑美帆先生をお招きして、「骨からみた大昔の人びと」というテーマで講演をいただきました。古人骨を調査すると性別、年齢、身長、体格、かかった病気などが分かるそうです。以下にお話の要点の一部を紹介します。

- ・旧石器時代の湊川人は身長 145 cm、胴長で短足、頭骨が厚い。
- ・縄文時代の虫歯率は 8.2 %。世界の他の地域の狩猟採集民の虫歯率が 0 ~ 3 % 程度なのでかなり高いことがわかる。また、骨折の所見では骨の真ん中が折れていることが多い。現代社会にはない骨折である。さらに写真のような変形性膝関節症が多く観察され、労働の過酷さがうかがえる。

- ・弥生時代はさらに虫歯率が高くなっている。米を食べるようになった影響だと思われる。また頭に切り傷などがあり争いの痕跡を残す殺傷痕を持つ骨が多い。新しい病気として大陸から「結核」が持ち込まれている。
- ・江戸時代には「梅毒」が出現し、出現度に地域差や階層差が確認されている。